

## パストラール

裸になった木々の枝は  
まるで霞のように重なり  
北風もその間をすり抜けるうち  
その強さをやわらげられていた

その枝先に座る細い影たちは  
空しさと哀しさとを通り過ぎて  
透きとおる空を見上げていた  
吸い込まれるように静かな空を

僕はその時  
手にしていた本を投げ棄てた  
しかめ面した詩人達の憤懣ばかりが  
一杯に書きなぐられただけの本を

ああ、僕には歌うことしかできない  
所詮、木は木だし  
落ち葉は落ち葉だ  
それ以上のことなんぞ書けはしない

降り積もる落ち葉のベッドに倒れこみ  
枝々を見上げると  
僕は無数の影に抱かれていた  
吸い込まれるように抱かれていた

(2000.1.2)